

ラグビーの不思議

中津市長 奥塚 正典

今秋はラグビーワールドカップの日本開催、5 試合が大分で見られます。中津にはラグビー部のある高校がなく、なじみがやや薄いのですが、世界から強豪チームが大分にやってきます。

ラグビーは 15 人同士の陣取り合戦。どちらに弾むかわからない卵形ボールを奪い合い相手陣の最終ラインを超え運び入れるトライが醍醐味です。面白いのは、前進しようとするのに自分より前方の味方にパスすると反則。また、キックの場合も蹴った人より前にいる味方はプレーできません。そこでボールを持つと守備する相手側に体ごとぶつかって突進し、タックルで倒されればボールを取られないように後ろに渡しつなぐことが大事です。

フォワードとバックで役割が分かれ、肩を組んで押し合うスクラムはフォワードのみ。バック陣はボールをもらい敵陣に向かって走ります。守備時のタックルは全員の仕事、つまり「全員で攻め全員で守る」のです。激しいぶつかり合いです。

ラグーマンと言うと「大きい人」とのイメージが強いのですが、体が小さくてもポジションにより活躍できます。ラグビーで最も求められるのは、「フェアプレー」と「ノーサイド精神」。試合中は死力を尽くし全力プレー、試合後は敵味方なくすがすがしく讃えあいます。ここらがラグビーの持つ魅力で、一旦はまるとそこから抜けられないようです。小学校3年生からラグビースクールに入った息子、最初は練習に行くのも嫌がっていたのに、中学生では



ラグビースクールの子どもたち

仲間と一緒に本場ニュージーランドに遠征するほどまでに魅せられました。不思議な力です。

ラグーマンを目指す若者、年をとってもラグビー魂を忘れられない OB・OG の経験者、そしてその強烈なプレーぶりとノーサイド精神に惹かれるファンは、世界一流のプレーを見てラグビーに惚れ直すのでしょうか。